

インフルエンザの流行が始まりました ～手洗い・咳エチケット等に努めましょう～

横浜市では、感染症法に基づき感染症発生動向調査を実施しています。令和 8 年第 33 週（8 月 10 日～8 月 16 日）の全市集計において、流行期入りの目安となる基準（1 定点医療機関※¹ 当たり 1 週間の患者報告数 1.00 人）を超え、「1.22」となり、流行期に入りましたのでお知らせします。昨年より 1 か月半程度早い流行期入りとなっています。

市民の皆さま一人ひとりが早めに予防策を取りましょう。

※ 1 定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告する医療機関（市内 90 か所）

市内定点当たりの患者報告数

年・週	期 間	患者報告数（人）（※ 2）	備考
令和 8 年第 30 週	7 月 20 日～7 月 26 日	0.51	
第 31 週	7 月 27 日～8 月 2 日	0.66	
第 32 週	8 月 3 日～8 月 9 日	0.49	
第 33 週	8 月 10 日～8 月 16 日	1.22	流行期入り

※ 2 患者報告数は医療機関からの追加報告により、数値が変動します。

【参考】横浜市感染症情報センターWeb ページ

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>



インフルエンザにかからない、うつさないためのポイント

 流水と石けんによる こまめな <u>手洗い</u>	 布やティッシュ等で 鼻と口をおさえる (咳エチケット)	 室内のこまめな <u>換気</u>	 十分な <u>休養</u> バランスのよい <u>食事</u>	 室内を <u>適切な湿度</u> (50～60%) に保つ
---	--	---	--	---

インフルエンザにかかったかもしれないと思ったときは

- ☐ 人混みへの外出を控え、無理をせず十分に休養をとりましょう。
- ☐ 高熱が続く、呼吸が苦しい、意識状態がおかしいなど、具合が悪ければ早めに医療機関を受診しましょう。
- ☐ 乳幼児や高齢者、妊婦、免疫力の低下、基礎疾患のある方は特に重症化しやすいため、心配な場合は早めに医療機関を受診しましょう。

インフルエンザの予防接種について

- ☐ 重症化予防のため予防接種を受けましょう（高齢者インフルエンザ予防接種は、秋頃から開始予定です）。

【参考】厚生労働省 Web ページ 「インフルエンザ（総合ページ）」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html



お問合せ先

（感染症対策全般について）医療局健康安全課長	竹澤	Tel 045-671-2442
（感染症発生動向について）医療局衛生研究所感染症・疫学情報課長	赤松	Tel 045-370-9279

横浜市インフルエンザ流行情報

横浜市医療局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

横浜市内でインフルエンザの患者報告数が増加し始めました

【第 33 週(8 月 10 日～8 月 16 日)の概況】

- ✓ 定点あたりの患者報告数※¹は、横浜市全体で **1.22** となり、前週 0.49 から増加しました。
- ✓ 昨年(第 39 週(2025 年 9 月 22 日～9 月 28 日))に比べ、1 か月以上早く 1.00 (流行開始の目安)を超えました。
- ✓ 年齢別では小児だけでなく、成人含めて幅広い年齢層で報告がありました。

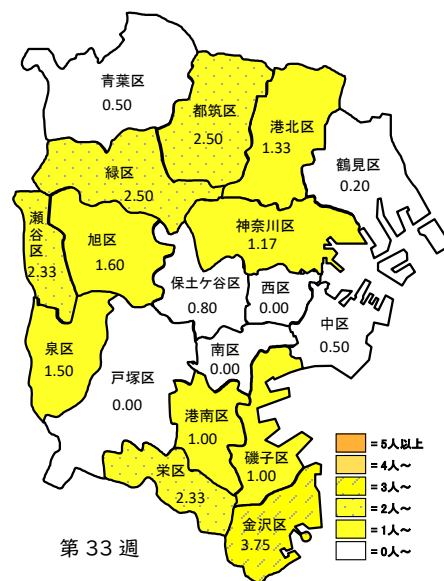
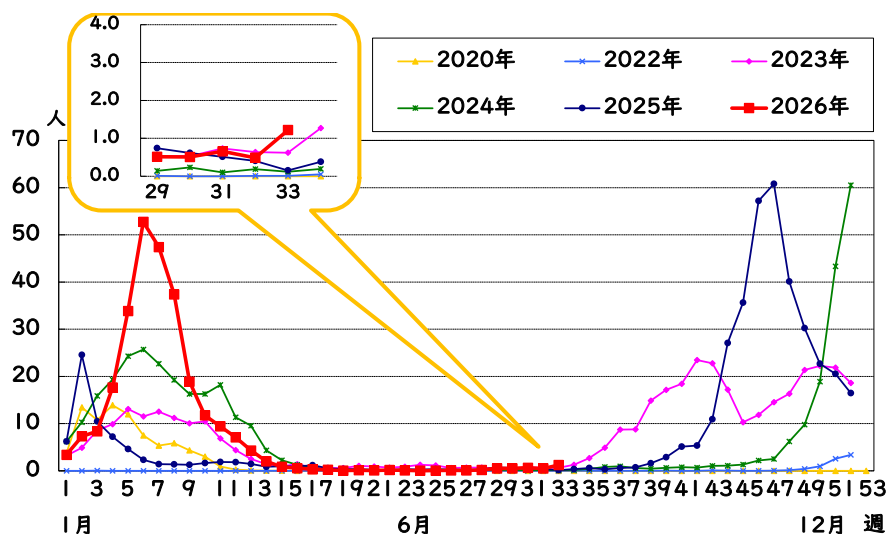
☞ 咳エチケット・正しい手洗い※²等、早めの対策が重要です。

※¹ 定点あたりの患者報告数とは、1 週間に 1 回、定期的にインフルエンザ患者発生状況をご報告いただく医療機関(市内 90 か所)からの患者報告数の平均値です。

※² [インフルエンザ\(総合ページ\)](#) | [厚生労働省](#)

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、7 月中旬(第 29 週 0.51)に増加し、第 33 週に 1.22 となりました。



最新の感染症情報はこちら



横浜メディカル
ダッシュボード



衛生研究所
インスタグラム

【お問い合わせ先】

横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課

TEL 045(370)9237

横浜市医療局健康安全課

TEL 045(671)2463